

寸八分の金の十一面観音像を結髪より取出し、奉納した。更に供奉の僧、満月上人を居住させた。

義家公は、この荒鹿に打乗り、長沼大高山に登り、さらに八幡岳に至った。荒鹿再び膝を屈したのでここに軍勢をたむろさせた。その後連戦連勝して、庚永五年、東北を鎮定させる事ができた。

義家公は、長光寺を弘祿山長楽寺と改称して、御甲、刀その他の宝物を奉納したという。

応永十八年、智山派新義真言宗、賢日が中興開山となり、その後寺運ますます繁昌し、末寺を建立三十四ヶ寺を持つようになった。元祿三年庚午六月一日、鹿島大神宮の本地仏を梓衝神社に合併したためか、大火多く、本寺も炎上して、旧記什物寺宝などが焼失した。

その後、梓衝庄屋安藤孫兵衛の寄進によつて、本堂が再建された。第十五代有玄靈夢によつて、弘祿山を荒鹿山と改称した。元祿六酉年、大門を建立、石瓦で屋根を葺いた。梓衝安藤弥五右衛門の寄進といわれる。

鹿島様(梓衝神社)の別当を司り、当地方随一の寺運も、明治の廃仏毀釋により神仏分離となつて、衰微の一途をたどり、わずかに昔日の面影をとどめるのみである。

(「長楽寺由緒書」「梓衝郷土史」より)

姥 神 様

《古 館》

古館の西、古町地内に姥神様と呼ばれている石の祠がある。梓衝神社の祭礼の際に、お假舎がここに